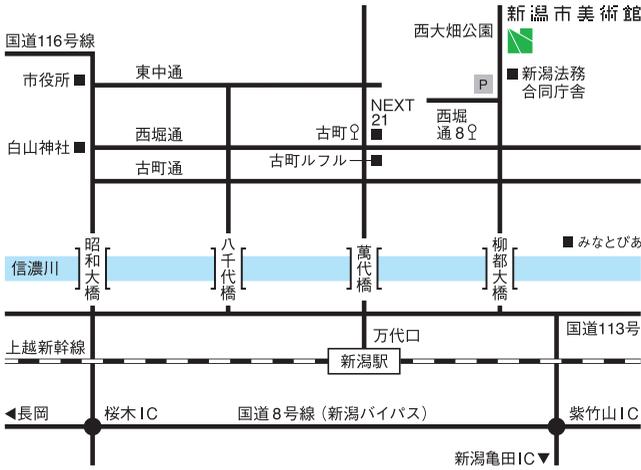


## 交通のご案内



バスでお越しの方 新潟駅バスターミナルから  
【A】[C6八千代橋線]乗車時間約16分→「西堀通八番町」下車→徒歩5分(約400m)  
\*便数は多くありませんが美術館最寄りのバス停です。  
【B】[B1萬代橋ラインなど]乗車約10分→「古町」下車→徒歩12分(約860m)  
\*最も便数が多いです。  
【C】[観光循環バス]乗車約30分→  
「北方文化博物館新潟分館前」下車→徒歩6分(約500m)

タクシーでお越しの方  
新潟駅万代口から約10分

自動車でお越しの方(無料駐車場最大46台まで)  
【1】[高速道路]日本海東北自動車道 新潟亀田ICを降り、柳都大橋経由で約20分  
【2】国道8号線(新潟バイパス)紫竹山ICを降り、柳都大橋経由で約15分  
\*駐車場情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

レンタサイクル・シェアサイクル  
●当館は「にいがたレンタサイクルステーション」です。自転車の貸出あり(有料)  
●「にいがた2kmシェアサイクル」のポートが、美術館前の西大畑公園に設置されています。  
\*詳細は「にいがたレンタサイクル」「にいがた2kmシェアサイクル」で検索

## 新潟市美術館

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9  
TEL:025-223-1622 FAX:025-228-3051  
Mail:museum@city.niigata.lg.jp  
URL:https://www.ncam.jp/

Facebook: fb.me/ncam.tsunagaru  
Instagram: @ncam\_official

新潟市美術館 検索



## ご利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時  
\*観覧券の販売は閉館30分前まで。

休館日 中面のカレンダーをご覧ください。  
\*臨時で変更になる場合があります。

	コレクション展		企画展
	個人	団体(20人以上)	
一般	260円	200円	そのつど 定めます
高校・大学生	190円	140円	
小・中学生	130円	90円	

\*土・日・祝日は小・中学生は無料になります。  
\*今年度に開催する当館主催の企画展は、中学生以下無料となります。  
\*当館主催の企画展観覧券でコレクション展も観覧できます。

観覧料の免除  
・障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方および一部の介助者は、コレクション展と当館主催の企画展が無料となります。受付でご提示ください。  
・新潟市内の小・中学校、特別支援学校、養護学校の児童・生徒が教育活動としてコレクション展や当館主催の企画展を観覧する場合、事前の免除申請により引率者を含む観覧料が無料となります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

- 施設サービス
- 車椅子を無料で貸し出しています。
  - ベビーカーを無料で貸し出しています。
  - バリアフリートイレは1階にあります(オストメイト対応)。
  - ベビーシートとベビーチェアは1階のトイレに設置しています。
  - 授乳室をご利用の方は受付にお申し付けください。
  - 補助犬の同伴が可能です。
- ・筆談での対応が可能です。  
・小さなお子さんがいる、障がいがあるなど、何らかの理由で来館を迷っている方へ来館の際に心配ごとがあればお問い合わせください。可能な範囲で対応します。

作品の解説・関連講座

- ・コレクション展のギャラリートークは、月1回程度開催します。
- ・企画展の作品解説、美術講座、美術館協力会による「ふれあい美術館ガイド」など各種講座・イベントのご案内は、チラシやウェブサイト、各種SNS、「市報にいがた」などでお知らせします。
- ・その他、展示解説をご希望の団体は、事前にご相談ください。

最新の情報は当館ウェブサイトでお確かめください。

【カフェ】スープとお茶(ひとさじ喫茶室)  
季節のスープとお食事、ティータイムをお楽しみ頂けます。  
TEL | 050-8888-3993  
営業 | 10時～17時(フード16時LO、ドリンク16時30分LO)  
定休日 | 美術館の休館日に準ずる ※臨時休業あり

2026年4月時点

## 主な施設

**展示室**

コレクション展では、当館所蔵品の魅力をご紹介します。  
企画展では、一年を通して多彩な展覧会を開催します。

**市民ギャラリー**

個展やグループ展など、美術創作活動の発表の場にご利用いただけます。

\*展示壁面長 50.1m / 天井高 3.3m  
\*入場無料を条件とし、物品販売はできません。

**ラウンジN**

展覧会を見たあとの休憩や日常の交流の場に。  
気軽に参加できる造形プログラム「きまぷrogram」も開催します。

**講堂**

講演会や美術講座を開催。  
美術に関するセミナー、研究など発表の場としてもご利用いただけます。

**実習室**

「創作」を通して美術を楽しむ場。  
原則金曜日は終日無料開放。申込み不要。ただし金曜以外の利用(有料)は要申込み。

**本のラウンジ**

全国の展覧会カタログなど、美術館ならではの面白いいろいろ。くつろぎのインテリアで、ゆったりお過ごしください。

## 施設の貸し出し

お問い合わせ先 施設の利用に関するお問い合わせ、お申し込みはこちら

TEL: 025-223-1622

	1日 午前9時30分～午後5時	午前 午前9時30分～正午	午後 午後1時～午後5時	追加 1時間につき
市民ギャラリー	8,970円	3,450円	5,520円	1,380円
実習室	10,140円	3,900円	6,240円	1,560円
講堂	12,350円	4,750円	7,600円	1,900円

## 利用期間と受付開始日

	ご利用可能期間	受付開始日
市民ギャラリー	2週間以内	利用開始日の9か月前の月の1日から(1日が休館日の場合は翌開館日)
実習室	1日以内	利用開始日の3ヶ月前の月の1日から(1日が休館日の場合は翌開館日)
講堂	2日以内	



新潟市美術館  
Niigata City Art Museum



モーリス・ユトリロ《パレット》1933年頃、笠間日動美術館蔵  
「画家のパレット」2026年10月3日(土)～2027年1月11日(月・祝)

## 展覧会スケジュール

EXHIBITION SCHEDULE

2026.4 - 2027.3

# 新潟市美術館 2026年度展示スケジュール

■ 休館日 ○ 企画展のみ開催 ■ コレクション展のみ開催

04 APR.							05 MAY.							06 JUN.						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4					1	2	1	2	3	4	5	6		
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				

07 JUL.							08 AUG.							09 SEP.						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4					1		1	2	3	4	5			
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			

10 OCT.							11 NOV.							12 DEC.						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5		
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

01 JAN.							02 FEB.							03 MAR.						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
				1	2		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6		
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28							28	29	30	31			

※展覧会や事業の内容、料金等は変更することがあります。  
※企画展は、半券持参で2回目は団体料金になる「リピーター割引」があります。

チケットを見せお得！ 新潟市美術館・新津美術館では、互いの企画展 観覧券(1回1名1年間有効)のご提示により、もう 一方の企画展を団体料金でご覧いただけます。

## 新潟市新津美術館 展示スケジュール

NAM NITSU ART MUSEUM

新潟市秋葉区蒲ヶ沢109番地1  
花と遺跡のふるさと公園内 TEL：0250-25-1300

おでかけ！絵本ミュージアム	5月23日(土)―8月30日(日)
田中達也展 みたてのくみたて	9月18日(金)―11月8日(日)
第20回秋葉区美術展覧会	11月28日(土)―12月6日(日)
第22回新潟教育アート展	2027年1月4日(月)―1月9日(土)
新津美術館の「舞台裏」	2027年1月23日(土)―3月7日(日)

## 戦後80年 戦争と子どもたち

4月11日(土)―  
5月31日(日)  
【一般当日：1,200円】

戦中から終戦直後に描かれた子どもの姿、子どものための絵本や紙芝居、子どもたち自身が描いた作品など約130点。戦時期に「子ども」像が担った意味、時代・社会・美術の抜き差しならぬ関係を検証します。



青柳喜兵衛《天翔ける神々》  
1937年、北九州市立美術館蔵

## 竹久夢二のすべて

画家は詩人でデザイナー

6月13日(土)―  
8月30日(日)  
【一般当日：1,500円】

京都・嵐山にある福田美術館の貴重なコレクションから、美人画の数々に加え、雑誌の挿絵、楽譜の表紙デザイン、本の装丁にいたるまで、「クリエイター」としての魅力が詰まった作品を展覧いたします。



竹久夢二《長崎十二景 眼鏡橋》(部分)  
1920年、福田美術館蔵(旧河村コレクション)

## 画家のパレット

10月3日(土)―  
2027年1月11日(月・祝)  
【一般当日：1,600円】

ピカソ、マティス、ダリといった海外作家や梅原龍三郎、林武などの日本近代洋画の巨匠らによるパレットと作品を合わせて紹介。パレットの中には、画家が得意としたモチーフが描かれたものもあります。画家の遊び心にも触れながらお楽しみください。



奥谷博《パレット》  
1995年、笠間日動美術館蔵

## とうせいえち ごさん きじん 当世越後三崎人

2027年1月23日(土)―3月22日(月・祝)  
【一般当日：1,000円】

「崎人」(きじん)とは「俗世に距離を置き、自娛の境地に遊ぶ賢者」という意味。越後の風土のなかに独自の小宇宙を築いてきた3人、美術家・土原木呂、写真家・倉茂義隆、カストリ雑誌収集家・西潟浩平による3つの個展。



土原木呂《BORO - 雪国古布須(鏡魂と祈り)》  
2009年頃～(未完)、約1,800×2,000cm 作家蔵

## 第58回新潟市美術展

前期〔洋画・彫刻・工芸・版画部門〕  
9月16日(水)―9月20日(日)【無料】  
後期〔日本画・書道・写真部門〕  
9月23日(水)―9月27日(日)【無料】

※9月16日は開場式(午前10時～)終了後開場 前期・後期ともに最終日は午後3時まで  
お問い合わせ 新潟市美術展運営委員会事務局(新潟市文化政策課内)

TEL：025-226-2631(平日午前8時30分～午後5時15分)

## コレクション展

コレクション展1  
重力人体／絵の中のパターン

4月24日(金)―8月2日(日)

立つ、座る、横たわる、宙に浮かぶなど、モデルが見せる様々な姿。「立つ」と一言で言っても、直立か(重力に抗う)もたれるか(受け入れる)で印象は大きく違います。「重さ」をひとつの補助線に、ポーズが作品にもたらす効果を探ります。



佐藤哲三郎《下町》1926年

コレクション展2  
わたしとかぞく

8月8日(土)―12月13日(日)

自分という、最も手軽なモデルを使ったトレーニングとして、あるいは絵描きである自身の存在証明として、ときには一見それとわからない変わり種まで。多種多様な自画像と、愛する家族をモチーフとした作品を、エピソードとともに紹介します。



ビエール・ボナール《浴室の裸婦》1907年

コレクション展3  
いろ、いろ、いろ

12月19日(土)―  
2027年3月22日(月・祝)

「色」は、作品の構成において密接で欠くことのできない要素です。支持体に塗られた絵具はどのような効果を鑑賞する人に与えるのか、展示されている場をどのように装飾していくのか。様々な色に注目しながらコレクションを紹介します。



髙橋《クリーチャー》1974年